

第56回-2013年度 紙パルプ技術協会年次大会 講演のご案内



株式会社

日新化学研究所

拝啓

時下ますますご清栄のことと存じます。平素は格別のお引き立てを賜り、誠に有り難うございます。この度、第56回紙パルプ年次大会において、ピッチ問題解決に対する弊社の取り組み内容について講演させていただく事となりましたので、ご案内申し上げます。

敬具

演題:ピッチ問題解決への包括的ケミカルアプローチ

講演者： 株式会社日新化学研究所 第一開発部 多田秀和

開催場所： アクトシティ浜松 4階コンgresセンター41会議室（C会場）

講演日程： 2013年10月9日（水） 17:10～17:30

主なプログラム：

- ①ピッチ問題発生メカニズム・・・ピッチ問題は何が原因で、どのようにして発生するのか？
- ②ピッチ量の挙動について・・・ピッチ量の測定方法、またピッチはどういった要因で増減するのか？
- ③ピッチ対策方法・・・ピッチ問題を解決するためにどのような方法があるか？内添と外添の違いは？
- ④ピッチ対策薬品のご紹介・・・脱粘着剤、酵素製剤、凝結剤などの適切な使用方法と効果は？
外添ピッチコントロール剤（抄紙工程用）の使用について。

講演内容（要旨）：

近年の製紙業界では、古紙利用率の増加、また系内クローズド化によって、粘着物によるピッチトラブルが増加傾向にあり、安定操業・品質向上を目指す製紙技術者にとって大きな課題のひとつとなっています。

古紙中のピッチは、原質工程においてある程度除去され、残存したものが抄紙工程に流入しますが、抄紙工程に流入したピッチは、抄紙各パートで付着堆積し問題を生じています。

原質工程においてピッチ除去が不十分になると、それはピッチトラブルを頻発させ多量の損紙を生ずるか、あるいは多量の外添薬品を必要とし、生産性の悪化に繋がると考えられます。すなわち、原質工程においてピッチを十分に除去することがピッチ問題を解決する唯一の方法と我々は考えております。

本講演では、ピッチトラブルの増加要因についての研究結果をご報告するとともに、最新のピッチコントロール技術についてご紹介いたします。

アクトシティ浜松イベントホールにて、紙パルプ年次大会期間中の10/9(水)、10/10(木)に弊社ブースを出展いたします。

※年次大会への参加方法について：紙パルプ技術協会への参加申し込みが必要になります。

詳しくは紙パルプ技術協会ホームページ (<http://www.japantappi.org/>)

または紙パ技協誌8、9、10月号をご覧ください。

担当者：土田和昭 Email tutida@nissin-kk.co.jp

弊社HPアドレス：<http://www.nissin-kk.co.jp>

TEL 072-671-5101/FAX 072-671-2289